

1. 職務の理解（6時間）	
<ねらい> 研修に先立ち、これからの介護が目指すべきその人の生活を支える「在宅におけるケア」等の実践について、介護職がどのような環境で、どのような形で、どのような仕事を行うのか、具体的なイメージをもって実感し、以降の研修において実践的に取り組めるようになる。	
科目（細目）	具 体 的 内 容
(1) 多様なサービスの理解 【3時間】	介護保険による居宅・施設のサービスの種類とサービスが提供される場の特性を理解する。 介護保険外のサービスの種類とサービスが提供される意義や目的を理解する。
(2) 介護職の仕事内容や働く職場の理解 【3時間】	各種サービスの内容や利用者像などを通じて介護職の仕事内容や働く現場を理解する。 (実際のサービス現場の見学、現場職員による体験談や視聴覚教材の活用し、より深く理解する。) ※【うち見学実習2時間】 ケアマネジメントを通じて、介護サービス提供に至るまでの流れを理解する。
2. 介護における尊厳の保持・自立支援（9時間）	
<ねらい> 介護職が利用者の尊厳ある暮らしを支える専門職であることを自覚し、自立支援、介護予防という介護・福祉サービスを提供するにあたっての基本的視点およびやってはいけない行動例を理解している。	
【評価のポイント】 ○介護の目標や展開について 尊厳の保持、QOL、ノーマライゼーション、自立支援の考え方を取り入れて概説できる。 ○虐待の定義、身体拘束、およびサービス利用者の尊厳、プライバシーを傷つける介護についての基本的なポイントを列挙できる。	
科目（細目）	具 体 的 内 容
(1) 人権の尊厳を支える介護 【6時間】	介護を必要とする人が有する権利とは何かを学ぶ。 介護に関する基本的な視点（QOL、ノーマライゼーション）について理解する。利用者におけるさまざまな権利擁護制度について理解する。 ■人権と尊厳の保持 個人としての尊重、アドボガシー、エンパワーメントの視点 役割の実感、尊厳のある暮らし、利用者のプライバシーの保護 ■QOL QOLの考え方、生活の質 ■ICF 介護分野におけるICF ■ノーマライゼーション ノーマライゼーションの考え方 ■虐待防止・虐待拘束禁止 身体拘束禁止、高齢者虐待防止法、高齢者の養護者支援 ■個人の権利を守る制度の概要 個人情報保護、成年後見制度、日常生活自律支援事業、生活保護制度

(2) 自立に向けた介護 【3時間】	介護における自立とは何かを学ぶ。 「その人らしさ」を尊重するために介護職として配慮すべき点について理解する。介護の予防の考え方について理解する。 ■自立支援 自立・自律支援、残存能力の活用、動機と欲求、意欲を高める支援 ■介護予防 介護予防の考え方
3. 介護の基本（6時間）	
<ねらい> ・介護職に求められる専門性と職業倫理の必要性に気づき、職務におけるリスクとその対応策のうち重要なものを理解している。 ・介護を必要としている人の個別性を理解し、その人の生活を支えるという視点から支援を捉える事ができる。	
【評価のポイント】 ○介護の目指す基本的なものは何かを概説でき、家族による介護と専門職による介護の違い、介護の専門性について列举できる。 ○介護職としての共通の基本的な役割とサービスごとの特性、医療・看護との連携の必要性について列举できる。 ○介護職の職業倫理の重要性を理解し、介護職が利用者や家族等と関わる際の留意点について列举できる。 ○生活支援の場では出会う典型的な事故や感染、介護における主要なリスクを列举できる。 ○介護職に起こりやすい健康障害や受けやすいストレス、またそれらに対する健康管理、ストレスマネジメントのあり方、留意点を列举できる。	
科目（細目）	具体的内容
(1) 介護職の役割、専門性と多職種との連携 【2時間】	介護環境の特徴（施設と在宅の違い、地域包括ケアの方向性等）を学ぶ。介護の専門性について考え、専門職に求められるものが何かを学ぶ。多職種の目的を学び、利用者を支援するさまざまな専門職について理解する。 ■介護環境の特徴の理解 訪問介護と施設介護サービスの違い、地域包括ケアの方向性 ■介護の専門性 重度化防止・遅延化の視点、利用者主体の支援姿勢、自立した生活を支えるための援助、根拠ある介護、チームケアの重要性、事業所内のチーム、多職種から成るチーム ■介護に関わる職種 異なる専門性を持つ多職種の理解、介護支援専門員、サービス提供責任者、看護師等とチームとなり利用者を支える意味、互いの専門職能力を活用した効果的なサービスの提供、チームケアにおける役割分担
(2) 介護従事者の職業倫理 【1時間】	介護職がもつべき職業倫理を学ぶ。介護職に求められる行動規範について事例を出して意見交換などをして理解を深める。 ■職業倫理 専門職の倫理の意義、介護の倫理（介護福祉士の倫理と介護福祉士制度等）、介護職としての社会的責任、プライバシーの保護・尊重

(3)介護職における安全の確保とリスクマネジメント 【2時間】	利用者の生活を守る技術としてのリスクマネジメントの視点を学ぶ。利用者を取り巻く介護チームで安全な生活を守るしくみについて学ぶ。 ■介護における安全の確保 事故に結びつく要因を探り対応していく技術、リスクとハザード ■事故予防、安全対策 リスクマネジメント、分析の手法と視点、事故に至った経緯の報告（家族への報告、市町村への報告等）、情報の共有 ■感染対策 感染の原因と経路（感染源の排除、感染経路の遮断）、「感染」に対する正しい知識
(4)介護職員の安全衛生 【1時間】	介護の特徴をふまえて介護職自身の健康管理の必要性について学ぶ。介護職に起こりやすい心身の病気や障害について学ぶ。介護職自身の健康管理の方法について学ぶ。 ■介護職の心身の健康管理 介護職の健康管理が介護の質に影響、ストレスマネジメント、腰痛の予防に関する知識、手洗い・うがいの励行、手洗いの基本、感染症対策
4. 介護・福祉サービスの理解と医療との連携（9時間）	
<ねらい> 介護保険制度や障害自立支援制度を担う一員として最低知っておくべき制度の目的、サービス利用の流れ、各専門職の役割・責務について、その概要のポイントを列挙できる。	
【評価のポイント】 ○生活全体の支援の中で介護保険制度の位置づけを理解し、各サービスや地域支援の役割について列挙できる。 ○介護保険制度や障害者自立支援制度の理念、介護保険制度の財源構成と保険料負担の大枠について列挙できる。 ○ケアマネジメントの意義について概説でき、代表的なサービスの種類と内容、利用の流れについて列挙できる。 ○高齢障害者の生活を支えるための基本的な考え方を理解し、代表的な障害者福祉サービス、権利擁護や成年後見制度の目的、内容について列挙できる。 ○医行為の考え方、一定の要件のもとに介護福祉士等が行う医行為などについて列挙できる。	
科目（細目）	具体的内容
(1)介護保険制度 【3時間】	介護保険制度のあゆみを理解し、制度の目的と動向について学ぶ。介護保険制度の基本的なしくみを理解する。介護保険制度にかかわる組織と役割を理解するとともに、制度の財政について学ぶ。 ■介護保険制度創設の背景および目的、動向 ケアマネジメント、予防重視型システムへの転換、地域包括支援センターの設置、地域包括ケアシステムの推進 ■しくみの基礎的理解 保険制度としての基本的しくみ、介護給付と種類、予防給付、要介護認定の手順 ■制度を支える財源、組織・団体の機能と役割 財政負担、指定介護サービス事業者の指定

(2) 介護と医療の連携 【3時間】	医療や福祉との連携について、サービス内容や連携のあり方を理解する。医療職と介護職が行うことができる医行為の違いについて理解する。QOLの向上を図るリハビリについて考える。 ■医行為と介護、訪問介護、施設における看護と介護の役割・連携、リハビリテーションの理念
(3) 障害者総合支援法と障害者自立支援制度、個人の権利を守るその他の制度 【3時間】	障害者への支援にあたり、障害者自立支援制度や社会的支援サービスの内容、利用の流れについて理解する。権利擁護や成年後見制度の目的内容について理解する。 ■障害者福祉支援制度の理念 障害の概念、障害者福祉支援制度の歴史 ■障害者自立支援法 障害者自立支援法の概要 介護給付・訓練等給付の申請から支給決定まで ■個人の権利を守る制度の概要 個人情報保護法、成年後見制度、日常生活支援事業
5. 介護におけるコミュニケーション（6時間）	
<ねらい> 高齢者の障害者のコミュニケーション能力は一人ひとり異なることと、その違いを認識してコミュニケーションを取ることが専門職に求められていることを認識し、初任者として最低限の取るべき（取るべきでない）行動例を理解している。	
【評価のポイント】 ○共感、受容、傾聴的態度、気づきなど基本的なコミュニケーション上のポイントについて列挙できる。 ○家族が抱きやすい心理や葛藤の存在と介護における相談援助技術の重要性を理解し、介護職としてもつべき視点を列挙できる。 ○言語、視覚、視覚障害者とのコミュニケーション上の留意点を列挙できる。 ○記録の機能と重要性に気づき、主要なポイントを列挙できる。	
科目（細目）	具体的内容
(1) 介護におけるコミュニケーション 【3時間】	対人援助関係におけるコミュニケーションの意義と目的を理解する。介護における役割と技法について理解する。事例を通して、利用者の状況・状態に応じたコミュニケーションの実際を理解する。 ■介護におけるコミュニケーションの意義、目的、役割 相手のコミュニケーション能力に対する理解や配慮、傾聴、共感の応答 ■コミュニケーションの技法、道具を用いた言語的コミュニケーション 言語的コミュニケーションの特徴、非言語的コミュニケーションの特徴 ■利用者・家族とのコミュニケーションの実際 利用者の思いを把握する、意欲低下の要因を考える、利用者の感情に共感する、家族の心理的理解、家族へのいたわりと励まし、信頼関係の形成、自分の価値観で家族の意向を判断し非難することがないようにする、アセスメントの手法とニーズとデマンドの違い ■利用者の状況・状態に応じたコミュニケーション技術の実際 視力、聴力の障害に応じたコミュニケーション技術、失語症に応じたコミュニケーション技術、構音障害に応じたコミュニケーション技術、認知症に応じたコミュニケーション技術

(2)介護におけるチームのコミュニケーション 【3時間】	介護における記録の意義と目的を理解し、書き方の留意点などについて学ぶ。介護における必要な報告・連絡・相談の意義と目的を理解し、具体的な方法について学ぶ。さまざまな介護の意義と目的を理解し、具体的な進め方について学ぶ。 ■記録における情報の共有化 介護における記録の意義・目的、利用者の状態を踏まえた情報と記録、介護に関する記録の種類、個別援助計画書（訪問・通所・入所、福祉用具貸与等）、ヒヤリハット報告書、5W1H ■報告 報告の留意点、連絡の留意点、相談の留意点 ■コミュニケーションを促す環境 会議の目的と意義、情報共有の場、役割認識の場、ケアカンファレンスの重要性
6. 老化の理解（6時間）	
<ねらい> 加齢・老化に伴う心身の変化や疾病について、生理的な側面から理解することの重要性に気づき、自らが継続的に学習すべき事項を理解している。	
【評価のポイント】 ○加齢・老化に伴う生理的な変化や心身の変化・特徴、社会面、身体面、精神面、知的能力面などの変化に着目した心理的特徴について列挙できる。 ○高齢者に多い疾病の種類とその症状や特徴、治療・生活上の留意点、および高齢者の疾病による症状や訴えについて列挙できる。	
科目（細目）	具体的内容
(1) 老化に伴うこころとからだの変化と日常 【3時間】	老化が影響を及ぼす心理や行動には個人差が大きいことについて理解する。老化とともに社会的環境が心理や行動に与える影響について理解する。多くの側面にわたる身体的老化現象と日常生活への影響について理解する。 ■老年期の発達と老化に伴う心身の変化の特徴 防衛反応の変化と喪失体験 ■老化に伴う心身の機能の変化と日常生活への影響 身体的機能の変化と日常生活への影響、咀嚼機能の低下 筋・骨・関節の変化、保温維持機能の変化 精神的機能の変化と日常生活への影響
(2) 高齢者と健康 【3時間】	高齢者に多くみられる症状や訴えがどのような疾病から起こるかなど、その特徴について理解する。高齢者に多い病気の原因や特徴、その病気をかかえる高齢者の生活上の留意点について理解する。 ■高齢者と疾病と生活上の留意点 骨折、筋力の低下と動き・姿勢の変化、関節痛 ■高齢者に多い病気と日常生活上の留意点 生活習慣病、循環器系、呼吸器系、消化器系、腎・内分泌系 脳神経系の病気筋・骨格系、泌尿器、皮膚の病気等
7. 認知症の理解（6時間）	
<ねらい> 介護において認知症を理解することの必要性に気づき、認知症の利用者を介護する時の判断の基準となる原則を理解している。	

【評価のポイント】 ○認知症ケアの理念や利用者中心というケアの考え方について概説できる。 ○健康な高齢者の「もの忘れ」と認知症による記憶障害について列挙できる。 ○認知症の中核症状と行動・心理症状（B P S D）等の基本的特性およびそれに影響する要因を列挙できる。 ○認知症の心理・行動のポイント、認知症の利用者への対応、コミュニケーションのとり方および介護の原則について列挙できる。 ○若年性認知症の特徴について列挙できる。 ○認知症の利用者の健康管理の重要性と留意点、生活不活発病予防について概説できる。 ○認知症の利用者の生活環境の意義やそのあり方について、主要なキーワードが列挙できる。 ○認知症の利用者とのコミュニケーション（言語、非言語）の原則、ポイントについて理解でき、具体的な関わり方（良い関わり方、悪い関わり方）を概説できる。 ○家族の気持ちや家族が受けやすいストレスについて列挙できる。	
科目（細目）	具 体 的 内 容
(1) 認知症を取り巻く状況 【1 時間】	「認知症を中心としたケア」から「その人を中心としたケア」に転換することの意義を理解する。できないことではなく、できることをみて支援することを理解する。 ■認知症ケアの理念 パーソンセンタードケア、認知症ケアの視点
(2) 医学的側面から見た認知症の基礎と健康管理 【2 時間】	老化のしくみと脳の変化を学び、認知症の原因を理解する。 認知症に類似した症状をもつ疾病について学ぶ。 認知症の主な原因疾患の病態、症状について学ぶ。 ■認知症の概念、認知症の原因疾患とその病態、原因疾患別ケアのポイント、健康管理 認知症の定義、もの忘れとの違い、せん妄の症状、健康管理（脱水・便秘・低栄養・低運動の防止、口腔ケア）、治療、薬物療法、認知症に使用される薬
(3) 認知症に伴うこころとからだの変化と日常生活 【2 時間】	認知症の症状を知りどのようなケアが必要か学ぶ。 認知症の人の行動と環境との関係について理解し、対応の仕方について検討する。 ■認知症の人の生活障害、心理・行動の特徴 認知症の中核症状、認知症の行動・心理症状（B P S D） 不適切なケア、生活環境での改善 ■認知症の利用者への対応 本人の気持ちを推察する、
(4) 家族への支援 【1 時間】	家族介護者の介護の大変さについて理解し、レスパイトの重要性を学ぶ。 ■家族への支援 認知症の受容過程での援助、介護負担の軽減（レスパイトケア）
8. 障害の理解（3 時間）	
<ねらい> 障害の概念と I C F、障害者福祉の基本的な考え方について理解し、介護における基本的な考え方に理解している。	
【評価のポイント】 ○障害の概念と I C F について概説できる。 ○各障害の内容・特徴および障害に応じた社会支援の考え方について列挙できる。 ○障害の受容のプロセスと基本的な介護の考え方について列挙できる。	

科目（細目）	具 体 的 内 容
(1) 障害の基礎的理解 【1時間】	国際生活機能分類（ICF）に基づきながら、「障害」の概念について理解する。障害者福祉の基本理念について理解する。 ■障害の概念とICF ICFの分類と医学的分類、ICFの考え方 ■障害者福祉の基本理念 ノーマライゼーションの概念
(2) 障害の医学的側面の基礎的知識 【1時間】	障害の原因となる主な疾患を理解する。障害に伴う真実的影響、障害の需要を理解する。障害のある人の生活を理解し、介護上の留意点について学ぶ。 ■身体障害 視覚障害、聴覚・平衡障害、音声・言語・咀嚼障害 肢体不自由、内部障害 ■知的障害 知的障害 ■精神障害 統合失調症、気分障害、高次脳機能障害、発達障害 ■その他の心身の機能障害
(3) 家族の心理の理解 【1時間】	家族支援は家族介護の肩代わり支援だけではないことを学ぶ。わが国に求められるレスパイトサービスの課題を学ぶ。 ■家族への支援 障害の理解・障害の受容支援、介護負担の軽減
9. こころとからだのしくみと生活支援技術（計75時間）	
<ねらい> ・介護技術の根拠となる人体の構造や機能に関する知識を習得し、安全な介護サービスの提供方法等を理解し、基礎的な一部または全介助等の介護が実施できる。 ・尊厳を保持し、その人の自立及び自律を尊重し、持てる力を発揮してもらいながらその人の在宅・地域等コミュニケーション等での生活を支える介護技術や知識を習得する。	
【評価のポイント】 ○主だった状態像の高齢者の生活の様子をイメージでき、要介護度に応じた在宅・施設等それぞれの場面における高齢者の生活について列挙できる。 ○要介護度や健康状態の変化に沿った基本的な介護技術の原則（方法、留意点、その根拠等）について概説できる。 ○生活の中の介護予防および介護予防プログラムによる機能低下の予防の考え方や方法を列挙できる。 ○人の記憶の構造や意欲等を支援と結びつけて概説できる ○人体の構造や機能が列挙でき、何故行動が起こるのかを概説できる。 ○家事援助の機能と基本原則について列挙できる。 ○装うことや整容の意義について概説でき、指示や根拠に基づいて部分的な介護を行うことができる。 ○体位変換と移動・移乗の意味と関連する用具・機器やさまざまな車いす、杖などの基本的使用方法を概説でき、体位変換と移動・移乗に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ○食事の意味と食事を取り巻く環境整備の方法が列挙でき、食事に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ○入浴や清潔の意味と入浴を取り巻く環境整備や入浴に関連した用具を列挙でき、入浴に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。	

○排泄の意味と排泄を取り巻く環境整備に関連した用具を列举でき、排泄に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ○睡眠の意味と睡眠を取り巻く環境整備に関連した用具を列举でき、睡眠に関するからだのしくみが理解され、指示に基づいて介助を行うことができる。 ○ターミナルケアの考え方、対応の仕方・留意点、本人・家族への説明と了解、介護職の役割や他の職種との連携（ボランティア含）について列举できる。	
9-I. 基礎知識の学習（12時間）	
科目（細目）	具 体 的 内 容
9-I-(1)介護の基本的な考え方 【2時間】	介護が理論的に、また、法的にどのような変遷をたどってきたのかについて理解する。 ■理論に基づく介護（ICFの視点に基づく生活支援、我流介護の排除）、法的根拠に基づく介護
9-I-(2)介護に関するところのしくみの基礎的理解 【4時間】	学習と記憶に関する基礎的な知識を理解する。感情と意欲に関する基礎的な知識を理解する。自己概念と生きがい、老化や障害の受容に関する基礎的な知識を理解する。 ■学習と記憶の基礎知識、感情と意欲の基礎知識、自己概念と生きがい、老化や障害を受け入れる適応行動とその阻害要因、ところの持ち方が行動に与える影響、からだの状態がところに与える影響
9-I-(3)介護に関するからだのしくみの基礎的理解 【6時間】	骨や関節などからだの動きのメカニズムを理解する。神経の種類とそのはたらきを理解する。からだの器官のはたらきを理解する。 ■人体の各部の名称と動きに関する基礎知識、骨・関節・筋肉に関する基礎知識、ボディメカニクスの活用、中枢神経系と体性神経に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、自律神経と内部器官に関する基礎知識、ところとからだを一体的に捉える、利用者の様子の普段との違いに気づく視点
9-II. 生活支援技術の学習（51時間）	
科目（細目）	具 体 的 内 容
9-II-(4)生活と家事 【6時間】	生活を継続していくための家事の重要性について学ぶ。いろいろな家事サービスは利用者にとってどのような意味があるのかを理解する。家事サービスとは何かについて具体的に理解する。 ■家事の生活の理解、家事援助に関する基礎的な知識と生活支援生活歴、自立支援、予防的な対応、主体性・能動性を引き出す、多様な生活習慣、価値観
9-II-(5)快適な居住環境整備と介護 【3時間】	安心して快適に生活するために必要な環境の整備とは何かについて学ぶ。住まいにおける安心・快適な室内環境の確保の仕方について学ぶ。高齢者や障害のある人が生活する中で、住宅改修や福祉用具を利用する意味や視点を学ぶ。 ■快適な居住環境に関する基礎知識 ■高齢者・障害者特有の居住環境整備と福祉用具に関する留意点と支援方法 家庭内に多い事故、バリアフリー、住宅改修、福祉用具貸与

9-Ⅱ-(6) 整容に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【6時間】	整容の必要性と、整容に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、整容の介護を行うための技術を身につける。 ■整容に関する基礎知識、整容の支援技術 身体状況に合わせた衣服の選択・着脱、身じたく、整容行動、洗面の意義・効果
9-Ⅱ-(7) 移動・移乗に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【6時間】	移動・移乗の必要性と移動・移乗に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、移動・移乗の介護を行うための技術を身につける。心身機能の低下が移動・移乗に及ぼす影響について理解する。 ■移動・移乗に関する基礎知識、さまざまな移動・移乗に関する用具とその活用方法、利用者・介助者にとって負担の少ない移動・移乗を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、移動と社会参加の留意点と支援 利用者と介護者の双方が安全で安楽な方法、利用者の自然な動きの活用、残存能力の活用・自立支援、重心・重力の働きの理解、ボディメカニクスの基本原則、移乗介助の具体的な方法(車いすへの移乗の具体的な方法、全面介助でのベッド・車いす間の移乗、全面介助での車いす・洋式トイレ間の移乗)、移動介助(車いす・歩行器・つえ等)、褥瘡予防
9-Ⅱ-(8) 食事に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【4時間】	食事の必要性と食事に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、食事の介護を行うための技術を身につける。心身機能の低下が食事に及ぼす影響について理解する。 ■食事にに関する基礎知識、食事環境の整備・食事に関連した用具・食器の活用方法と食事形態とからだのしくみ、楽しい食事を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法、食事と社会参加の留意点と支援 食事をする意味、食事のケアに対する介護者の意識、低栄養の弊害、脱水の弊害、食事と姿勢、咀嚼・嚥下のメカニズム、空腹感、満腹感、好み、食事の環境整備(時間・場所等)、食事に関した福祉用具の活用と介助方法、口腔ケアの定義、誤嚥性肺炎の予防
9-Ⅱ-(9) 入浴、清潔保持に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【8時間】	入浴・清潔保持の必要性と入浴・清潔保持に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、入浴・清潔保持の介護を行うための技術を身につける。心身機能の低下が入浴・清潔保持に及ぼす影響について理解する。 ■入浴、清潔保持に関連した基礎知識、さまざまな入浴用具と整容用具の活用方法、楽しい入浴を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 羞恥心や配慮への配慮、体調の確認、全身清拭(身体状況の確認、室内環境の調整、使用物品の準備と使用方法、全身の拭き方、身体を支え方)、目・鼻腔・耳・爪の清潔方法、陰部洗浄(臥床状態での方法)、足浴・手浴・洗髪

9-Ⅱ-(10)排泄に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【6時間】	排泄の必要性と排泄に関連するところとからだのしくみを理解する。利用者本人の力を活用し、気持ちのよい排泄の介護を行うための技術を身につける。心身機能の低下が排泄に及ぼす影響について理解する。 ■排泄に関する基礎知識、さまざまな排泄環境整備と排泄用具の活用方法、爽快な排泄を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 排泄とは、身体面（生理面）での意味、心理面での意味、社会的な意味、プライド・羞恥心、プライバシーの確保、おむつは最後の手段／おむつ使用の弊害、排泄障害が日常生活上に及ぼす影響、排泄ケアを受けることで生じる心理的な負担・尊厳や生きる意欲との関連、一部介助を要する利用者のトイレ介助の具体的方法、便秘の予防（水分の摂取量保持、食事内容の工夫／繊維質の食物を多く取り入れる、腹部マッサージ）
9-Ⅱ-(11)睡眠に関連したところとからだのしくみと自立に向けた介護 【6時間】	睡眠の必要性と睡眠に関するところとからだのしくみを理解する。心地よい安眠を支援するための知識と技術を身につける。心身機能の低下が睡眠に及ぼす影響について理解する。 ■睡眠に関する基礎知識、さまざまな睡眠環境と用具の活用方法、快い睡眠を阻害するところとからだの要因の理解と支援方法 安眠のための介護の工夫、環境の整備（温度や湿度、光、音、よく眠るための寝室）、安楽な姿勢・褥瘡予防
9-Ⅱ-(12)死にゆく人のところとからだのしくみと終末期介護 【6時間】	終末期のとらえ方を学ぶ。終末期から死までの身体機能の変化について理解し、状況に合わせた対応を学ぶ。死に直面した時の心理状況について理解し、こころの変化の受け止め方を学ぶ。 ■終末期に関する基礎知識とこころとからだのしくみ、生から死への過程、苦痛の少ない死への支援 終末期ケアとは、高齢者の死に至る過程（高齢者の自然死（老衰）、癌死）臨終が近づいたときの兆候と介護、介護従事者の基本的態度、多職種間の情報共有の必要性
9-Ⅲ.生活支援技術演習（12時間）	
<ねらい> - 介護過程の目的と意義について理解する。 - 介護過程の展開プロセスについて理解する。 - チームアプローチにおける介護職の役割と専門性について理解する。 - 事例を通じて、利用者のところとからだの力が発揮できない要因を分析する。 - 事例を通じて、利用者本人にとって適切な支援技術は何かを検討する。 - 事例を通じて、利用者の心身の状況に合わせた介護を提供する視点について理解する。	
科目（細目）	具 体 的 内 容
9-Ⅲ-(13)専門性を活かした介護過程の展開 【6時間】	■介護過程の目的・意義・展開、介護過程とチームアプローチ

9-Ⅲ-(14) 総合生活支援技術演習 【6 時間】	■（事例による展開） 生活の各場面での介護について、ある状態像の利用者を想定し、一連の生活支援を提供する流れの理解と技術の習得、利用者の心身の状況にあわせた介護を提供する視点の習得を目指す。 事例の提示→こことからだの力が発揮できない要因の分析→適切な支援技術の検討→支援技術演習→支援技術の課題 事例は高齢（要支援 2 程度、認知症、片麻痺、座位保持不可）から 2 事例を選択して実施
10. 振り返り（4 時間）	
<ねらい> 研修全体を振り返り、本研修を通じて学んだことについて再確認を行うとともに、終業後も継続して学習・研鑽する姿勢の形成、学習課題の認識をはかる。	
科目（細目）	具 体 的 内 容
(1) 振り返り 【2 時間】	研修を通じて学んだこと、今後継続して学ぶべきこと、根拠に基づく介護についての要点をまとめる。
(2) 就業への備えと研修終了後における継続的な研修 【2 時間】	実際に当法人で行われている研修の実例（OFF-JT、OJT）をあげて、具体的にイメージし、就業後の継続学習の必要性を考える。